

<今回>318回目 2022年11月25(金)14時~17時 601会議室
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p402、明治の学会 より

<前回>317回目(22-11-7)出席者10名
資料(22-11-25-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 皆さま読書会を継続していただき、まことにありがとうございます。特に高山氏には御礼申し上げます。古代史にもやる気を失っていましたが、勇気づけられました。この12, 13日と八王子セミナーが開催されて、私はwebで参加させていただきましたが、とても興味あるテーマで、皆さんから一度は聞いたことの或る論点が表示され、まだ勉強すれば、ついていく自信ができました。

B 資料 韓智興の所属など、九州古代の会の木村寧海氏の倭国通信206号の伊吉連博徳書の意味の切り貼りを配布しました。大伴部袴麻のお陰で帰国できた4人の人物や韓智興や従者西漢大麻呂(足島)、趙(弓削)元寶とその児、筑紫の君薩夜麻、など人間関係がわかります。倭国の使者最も優れたりの表現や2勢力の諍いで韓智興は遠島になっていることなど興味深い。(争った二勢力を古田は近畿勢力と九州王朝勢力とみている。高山氏は近畿勢力内の新羅派、百済派の二勢力とみている)

C 読書 p396 三 九州年号の発掘 より

- 1) 海東諸国記 海東は朝鮮からみて東、日本列島と琉球。李氏朝鮮の碩学申淑舟の書、成宗二年(1471年)の成立。ここに一つの不思議がある。日本国記の中にある。初めにかかげられた年号だ。日本の年号は701年(大宝元年)から現代にいたるまで連綿と続いている。それ以前は孝徳天皇の時代10年に大化5年、白雉5年の10年と天武天皇末年に朱鳥元年の延11年3個が飛び飛びにあったと日本書紀に書かれている。(年号の体裁をなしていないが年号という)
- 2) 九州年号対比表が示される。最初は(西暦522年)、(干支)壬寅(天皇代)継体16年)、善化の順で最後は701年辛丑文武天皇5年大宝元年まで32年号が書かれている。178年継続している。日本書紀の大化、白雉、朱鳥に相当するところに明らかに異なる年号がある。年号的には2王朝並列である。
- 3) 日本側の記録 応永8年1401年霊気記私抄、元龜元年(1570年)以降成立とみられる如是院年代記、(新校羣書類従第20巻座粒二に納められている)。ほか表を参考にされたい
- 4) 襲国偽潜考 鶴峰戊申著 本居宣長の弟子で卑弥呼は南九州の女曾が近畿王朝の名をかたって中国に貿易、朝貢した師の説を基に九州の古文書を調べたら、年号が幾系統も出てきた。襲国偽潜考という本としてまとめる最後に「今ここに曳けるところは九州年号と題したる古写本によるもの也」と、鶴峰戊申が勝手に命名したのではないと戊申自身が明記している。

本居宣長の説は表面では日本列島には古から近畿天皇家しか王権は存在しないとしながら、裏では九州にそれと匹敵するほどの勢力の存在を認めていた説をはらんでいたのではないか。宣長は合理的である。「魏志倭人伝」の距離表記から邪馬壹国は九州内の土地を出ないと読み取っていた。だから九州には近畿勢力に匹敵する勢力があったことを認める説を内在していたといえる。

次回2022年12月5日(月) 14時から17時 601会議室

12月23日(金) 14時から17時 601会議室